



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 蒲池正次、小澤正剛、下田勝二、
 山城光俊、及川雅寛、谷口薫、
 高田欽也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

臨床検査技師による糖尿病予防 Forum 東京・大阪で同時開催!

去る、11月15日(日)、“臨床検査技師による糖尿病予防フォーラム 2009”を、東京・大阪の2会場で開催した。このイベントは、国連が定めた“世界糖尿病デー11月14日”に賛同するかたちで市民向けの講演会を開催、臨床検査・栄養・健康相談、糖尿病関連検査の体験も併せ行った。検査や健康相談を受けた市民は東京・大阪両会場で400名を数えた。

東京会場・・・

東京会場(東京ステーションコンファレンス サピアタワー)では午前10時から、「糖尿病予防」をテーマに患者と臨床医がそれぞれの立場から講演した。

自治医科大学附属さいたま医療センターの臨床検査技師で糖尿病療養指導士の三ツ橋美幸氏は自身の体験談を語られ、10歳の時に1型糖尿病を発症、インスリン注射と血糖自己測定(SMBG)を余儀なくされたことや、当時のインスリン注射や SMBG は煩雑で、痛みもひどいものであったと当時を語った。

糖尿病の合併症の発症・進行を予防(二次予防・三次予防)するために血糖コントロールが基本となること、日常生活で血糖をチェックすることが肝要であり、健康な人と変わらない社会生活を実現する頼もしい助っ人が SMBG であると述べられた。

また測定器の特性の違いや手技により測定値に影響が出てくる場合もあり、使用に当たっての注意点などを説明された。SMBG を有効に活用し、自己管理の質の向上を求めた。糖尿病が他の疾患と異なるのは“自己を管理し、自己で治療していく病気”であると感じているとした。

日本糖尿病学会の門脇孝理事長(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授)は、講演の冒頭、世界糖尿病デーの14日、各地で糖尿病の啓発イベントが開かれ、国連のシンボルカラーの青にライトアップが行われたことを紹介された。

現在、日本の糖尿病患者数は890万人、その予備軍を含めると約2210万人と推定され、今や20歳以上の4人に1人が糖尿病またはその予備軍といわれている。

糖尿病治療の目標は、合併症の発症や進展を阻止し、健康寿命を確保することであると述べられた。門脇先生は三ツ橋さんのお話と区別され、2型糖尿病を中心に講演され、2型糖尿病の誘発原因としての生活習慣の変化、またライフスタイルの欧米化が進行し、その結果「生活習慣病」が急増していると話された。

この治療と予防には食事療法と運動の重要性、肥満を防止し健康的な生活を送ること。ご自身の研究から肥満とインスリン感受性ホルモンであるアディポネクチンの存在、その他の遺伝子異常による糖尿病・脂質異常症・肥満症が疑われる場合の遺伝子検査がすすみ、予め予防対策ができる時代になってきていると話された。フロアから糖尿病の診断基準の HbA1c について質問があり、HbA1c を指標とした良好な血糖コントロールの継続が重要であると説明された。

午後1時からは、松岡健平先生(慶應義塾大学医学部客員教授)の司会で「糖尿病療養指導の実際と問題点」と題して、臨床検査技師や薬剤師、管理栄養士、理学療法士、糖尿病看護認定看護師らが参画しパネルディスカッションが行われた。

検査体験コーナーでは、12時開場と同時に整理券を手にした市民100名ほどが SMBG を体験された。

糖尿病療養指導士は SMBG の指導と結果の説明等的確に、に

こやかに、親切に、説明されていた。

また医師による健康相談・糖尿病相談では説明を真剣に受け止め、満足された様子が伺えた。展示・試食・試飲コーナーにも立ち寄り、熱心に健康食品の説明を受け、試食をしている光景が印象的でした。

講演、SMBG 共に好評で、参加者は毎年やって欲しいと言う人が多く、満足げに会場をあとにされた。



大阪会場・・・

大阪会場では、都島慶応義塾大学客員教授、佐藤元大阪市立北市民病院副院長、小宮山大阪鉄道病院技師をお招きし、講演会とパネル討論会を行った。

健康相談体験では、学会の展示会場のようなスペースに、相談コーナー、体験コーナー、健康食品コーナー、検査機器展示を設けました。また、日臨技コーナー、臨床検査技師資格取得相談コーナーも設け、技師を大いに啓発しました。

参加者のアンケート結果は、「臨床検査技師の仕事を理解して頂けましたか?」の質問に対し、理解した64%、少し理解できた26%、余り理解できなかった1%、無回答8%でした。

この事からも、今回の事業は、市民に技師の業務を理解して頂ける機会と実感しました。

当日、各担当して頂きました会員の皆様の感想を紹介します。

◆ 今井(講演会担当) :

フロアからの素朴な質問に対して講師の先生方からいねいな解答があり質問者には十分に満足して頂きました。終了後もなお講師の先生のところへ駆け寄り話しかけている姿もあり、この講演会が非常に有意義なものであったことを強く感じました。

◆ 小宮山(体験担当) :

たくさんの方の市民の方が開場予定時間前からお越しになり、開始を30分前倒しました。

体験コーナーでは、SMBG71名、頸動脈エコー44名、骨密度35名、体脂肪測定20名、ABI48名、フットケア16名、アロマセラピー34名の参加があり、268名の皆様に検査を体験して頂きました。参加された市民からも、「ゆっくり話を聞いてもらえ、とても安心できました」と満足された様子でした。

次ページへ続く・・・